



主張

自分らしく生きられる学校づくり ～一人一人の多様性を認め合う～

宮崎 正

「海がある。山がある。川も湖もある。活気ある都市の顔と、標高一、〇〇〇mを超える急峻な山々の厳しい表情を併せもっている。街のそここで音楽が響き、至る所で最先端技術の息吹が聞こえる。肥沃な土地ではあまたの花弁や野菜が栽培され、豊饒の海からは多種多様な魚介類が届けられる。」浜松は、よく、このように言われます。人口八〇万人の政令指定都市で、「やらまいか精神」という進取の気性で取り組むことが根づく地域です。冒頭、浜松市の紹介をしましたが、現在、浜松市教育委員会に所属していますので、本市の取組も交えた内容を書かせていただきます。

さて、日本は、同性婚が認められていないことや、性的マイノリティ（LGBTQ）に関する教育が十分に行われていないことから、先進国の中でも性の多様性に対する知識や理解が遅れていると言われています。

学校教育においては、授業の中で学習する機会を設けたり、講演会を行ったりすることで、生徒はもとより教職員への理解も図られつつありますが、まだまだ、不十分な学校が多いのが現状ではないでしょうか。具体的には、制服・水着や髪型の自由化、多目的トイレの設置、宿泊学習における入浴等、様々な場面で配慮が求められています。例えば、本



市のいくつかの学校では、制服について、生徒や保護者からの意見を参考にしながら、計画的に変更を進めています。また、校則についても、生徒が参画して見直しを行う学校が主流となりつつあります。このように各学校での取組も改善されてきています。

市としても、「多様な性への理解を深め行動するための職員ハンドブック」を作成し、スクールカウンセラーや教職員向けに、性的マイノリティ（LGBTQ）に関する研修を実施しています。初任者研修や人権担当者の研修において、市の職員が講師となって「性的マイノリティの人権」に関する講義を年一回実施し、教職員の理解促進を図っています。また、二〇二〇年四月から、性的少数者のカップルを公認する「パートナーシップ宣誓制度」を静岡県内で初めて導入し、性の多様性の理解を広め、人の生きづらさや偏見、差別等を解消し、誰もが自分らしく生きることのできる社会の実現を目指しています。

性の多様性の理解について急速に社会的関心が高まる中、これからの学校教育においては、自身の性的指向や性自認などで悩んでいる生徒がいるということを前提に、適切な時期に適切な内容を生徒に提供することが重要です。全ての教職員が多様な性に関して正しい知識を身に付け、生徒が適切に行動することができるよう支援していくことが必要だと思います。

公表されているLGBTに関する調査の中には、LGBTに該当する人が、一人に一人の割合でいるということを示しているものもあります。施設の改修や校則の見直しに留まらず、自分も含めた誰もが多様な性の在り方、人それぞれの生き方を尊重し、自分らしく生きることを認め合うことについて生徒自らが考えられるようにしていきたいものです。

（元全日中副会長・元浜松市立曳馬中学校長）